

Q 3. 南山法科大学院の教育において、合格に結びついた要素は何だと思いますか。

A 3. 平林 大学院の授業は、少人数のクラス編成で、先生と学生との対話形式で進められるので、予習をきちんとこなし、授業中は議論に参加することが求められました。授業で扱う題材について幾つかの文献にあたって自分なりに検討した上で、授業中に皆で意見交換をしたり議論することで、「自分の頭で考える」ということが自然に実践できるようになりました。このことが合格に必要とされる思考能力を養うのに役立ったと思います。

また、レポートや定期試験の答案についても先生方がコメントをくださるなど、自分の論述の仕方などを検討する機会があり、こうしたことの積み重ねが本試験における答案のイメージの確立につながり、本試験でも落ち着いて問題と向き合って論述することができたのだと思います。



磯貝 新司法試験では、難しい問題に対して自分なりの考えを示す能力が要求されました。このような能力は、先生方や他の学生と普段から議論することによって養われるものだと思います。南山は学生が比較的少ない中規模校であるため、先生方や学生同士の距離が近く、また、学生のみならず先生方も参加し、いつでも意見交換できるシステム（Web掲示板*）があり、議論する機会も多かったことが非常に役立ちました。

*南山法科大学院では、ITの利活用による自主的な学習支援を行っており、教員と院生が自由に書き込むことができるコミュニケーションスペース「掲示板」等、様々な自学自習システム（NANZAN Self-Learning System）を作り上げています。

Q 4. 教員と学生の議論が多いことは、南山法科大学院の教育の特徴でしょうか。

A 4. 丸山 法科大学院は、通常以上に厳しい基準で設置された専門職大学院ですから、教員の対学生比が全国で大きく異なることはありません。ただ、収容定員が少ない本学では、個々の教員が日常的に多くの学生と接する機会が多いため、相対的に濃密な指導・学習を保証する環境が実現しています。また、本学は、無理

矢理に特色を作ることはせず、「人間の尊敬のために」の教育モットーを基礎として、基本的な指導・学習を徹底する路線をとっています。そして大きな特徴のないのが、南山法科大学院の特徴です。

Q 5. 最後に、法曹を目指す学生へアドバイスをお願いします。

A 5. 平林 私は、法律の勉強として当たり前のことをただコツコツと積み重ねてきました。ただ、それは言葉でいうのは簡単でも、実行するのはなかなか大変なのです。このままでは合格できないのではないか、という不安感といつも背中合わせになりながら、何とか一歩でも合格に近づきたいと日々机に向かっていました。これから

勉強を始められる皆さんも、途中で不安な気持ちになったりすることがあるかと思いますが、あきらめずに地道に努力を重ねれば道は開けていくと思います。逆に、努力を怠れば道半ばで終わってしまいます。どうか強い意志で合格を勝ち取って頂きたいと思います。

磯貝 新司法試験に合格できるだけの力は、法科大学院で出される課題などを一つ一つじっくりと真面目に取り組んでいくことににより身に付くと思います。勉強は本当に大変ですが、諦めずにがんばってください！宇佐美 合格するためにはそのための環境が必要です。南山大学はキャレル（専用机）や図書室等の施設、指導教員制度やアドバイザー制度によるアフターフォロー等についても充実しています。そして質の高い講義に志の高い友人達。南山大学は合格できる環境がそろっている法科大学院です。

丸山 法科大学院ができる法曹職の現実味が増し、チャレンジする価値も大きくなりました。ただ、法科大学院に在籍すれば司法試験に合格するわけではありません。主体的かつ積極的に学ぶ姿勢が前提であることを自覚してください。また、法科大学院は予備校とは違い、受験テクニックを教える場でもありません。今後の司法試験も、テクニックで合格できるものにはなりません。教員は理論と実務の架橋を意識して、学生を最大限に支援ていきますので、教員の手助けを受けながら主体的に学んでいけば、法曹の「夢」が「現実」のものとなるはずです。

Information

2007年度学生納入金改定について

一授業料、施設設備費とも据え置きを決定

2007年度南山大学学生納入金について、2006年9月29日開催の南山学園理事会は、「入学に際しての宣誓」に示されたスライド制による授業料の算出根拠のうち、2007年度授業料算出においては、教育研究条件改善計画に応じた改定率（増額に作用、上限3%）を0%とし、授業料を据え置くことを決定しました。あわせて、施設設備費についても、現状で大学の施設設備取得費および維持経費増には対応可能と判断し、2006年度と同額とする決定をいたしました。

ビジネス研究科ビジネス専攻については、授業料を現行の700,000円に据え置くとともに、施設設備費を現行の100,000円に据え置く。

法務研究科については、授業料を現行の1,000,000円に据え置くとともに、施設設備費を現行の200,000円に据え置く。

【瀬戸キャンパス学部学生】

名古屋キャンパス学部学生の授業料に、総合政策学部は100,000円、数理情報学部は200,000円をそれぞれ加算して算出する。授業料を総合政策学部は現行の818,000円に、数理情報学部は現行の918,000円にそれぞれ据え置く。施設設備費は名古屋キャンパス学部学生と同額とし、両学部とも現行の210,000円に据え置く。

【瀬戸キャンパス大学院学生】

授業料を現行の718,000円に据え置くとともに、施設設備費を現行の210,000円に据え置く。

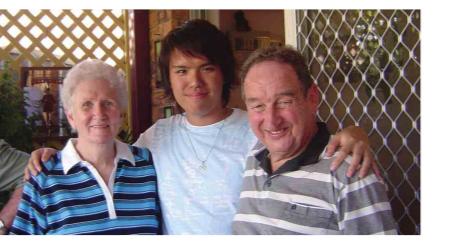
【名古屋キャンパス大学院学生】

ビジネス研究科ビジネス専攻および法務研究科を除く研究科については、授業料を現行

（総務部）

Webページ企画「南山のDNA」公開中！

南山大学公式Webページ「南山のDNA」では、様々な分野で活躍されている南山大学にかかわりのある方を紹介し、大学で学んだ事、現在・未来の事を語っていただいている。



第3回のゲストは、国際地域文化研究科の希代翔さん。学生生活を通してボランティアに目覚め、2004年にNGO団体を設立。現在はその活動をサポートしながら、NGO「外国人医療センター」の職員としても活躍されています。是非ご覧ください。

<http://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/dna/>

シーファー大使と南山大生との懇談会

11月1日、名古屋アメリカン・センターにおいて、駐日米国大使J.トマス・シーファー大使と南山大生との懇談会が開催され、活発な意見交換が行われた。



寄付者ご芳名

「南山大学教育研究支援」へのご協力に感謝いたします。

興和（株）様
アイシン精機（株）様
南山大学同窓会 様
(株)豊田自動織機 様
三機工業（株）名古屋支店 様
(有)宝商会 様
米田財団東京事務所 様
河村 恒雄 様
石井 義秋 様

南山大学

発行 学長室
〒466-8673 名古屋市昭和区山里町18
Phone: 052-832-3113(直通)
E-mail: gaku-koho@nanzan.ac.jp
<http://www.nanzan-u.ac.jp>

2006.12.20

NANZAN bulletin

vol.159
2006.12.20



NANZAN
UNIVERSITY

9月21日、法科大学院の課程を修了した者を対象に実施された新司法試験の初年度合格者が法務省より発表された。今年度受験したのは、2004年4月に法学既修者として法科大学院に入學し、今年3月に2年コースを修了したうちの20091名で、1009名が合格した。南山法科大学院からは5名が合格した。今回、合格された法科大学院修了生の体験談を交え、総務担当・将来構想担当副学長の丸山雅夫教授に話を伺つた。

Q 1. まず、初の新司法試験を終えて、感想をお聞かせください。

A 1. 丸山 何よりも、全国平均を若干上回る合格率を出せたことを素直に喜びたいと思います。他大学のいくつかが、新試験に合格する可能性の高い既修学生を種々の方策を取り込んだに対して、真っ向勝負による結果は誇つてよいでしょう。学生個人の努力の成果であることは勿論、学生を支えてきた教員、事務職員、関係者の寄与も大きかったと感謝しています。ただ、法科大学院の真の実力が問われるには標準コースの学生が新試験を受験する来年以降であり、今後とも地道な努力を続ける必要性を痛感しています。

Q 2. 南山法科大学院に入学して、いかがでしたか。

A 2. 磯貝 理論と実務の架橋という法科大学院の理念に基づいて、この両面からの教育がなされていると感じました。理論面では、大学教授の先生の授業により法律を基礎からしっかりと学ぶことができ、実務面では、弁護士、検察官、裁判官などの実務家の先生から、学んだ法律をどのように使うのか、具体的な問題を検討しながら学ぶことができました。そして、理論的にも実務的にも難しい問題に直面したときには、大学教授の先生と実務家の先生とが意見を交換し合い、学生もこの議論に参加することにより、より高いレベルで問題を検討する能力を養うことができたと感じています。

平林 入学した当初は、授業の内容が今まで予備校でやってきたこと違うことに面喰らいました。入学前に予備校を利用しておこなっていた勉強は、条文の趣旨を盛り込んだ論証を用意してそれを覚えることや、答練の問題を利用して論点を抽出する能力を鍛えることに重点がおかれていました。しかし、大学院では、授業で取り扱う題材を使って、判例や通説の不都合性について徹底的に考え抜いたり、どうしてこうした制度が設けられているのかといった本質的なところを考えたり、妥当な結論につながる法律構成を考えたりといったことが中心になりました。こうした勉強は新鮮で興味深く、面白いものでした。

また、先生方は懇切丁寧に指導してくださいり、学生研究室には自分専用のデスクも用意されており、勉強をするにはとても恵まれた環境にありました。



総務担当・将来構想担当副学長
法科大学院教授

丸山 雅夫



大学3年頃から司法試験の勉強を開始。その後、予備校に通い勉強するが、結果は振るわず、2004年4月、南山法科大学院の法学既修者コースに入学。2006年3月修了、5月に新司法試験を受験。



磯貝 隆博
平林 奈純



大学卒業後、一般企業での職務経験を経た後、2001年1月、予備校に通い司法試験の勉強を開始。2003年、折一試験に合格するが、論文試験の結果は振るわず、2004年4月、南山法科大学院の法学既修者コースに入学。2006年3月修了、5月に新司法試験を受験。

Special Events

未来の自分を見つけに行こう!「一日体験入学会」

10月9日、名古屋・瀬戸両キャンパス(以下、それぞれNNC、NSC)において、一日体験入学会を開催した。午後3、4限目の開講科目の一部を高校生、受験生に開放し、7月開催のオープンキャンパスとはまた違った角度から、普段の大学の様子を体験してもらうことが狙いである。当日は幸い天候にも恵まれ、北は北海道から南は鹿児島まで20都道府県から参加申し込みがあり、NNC678名、NSC106名、両キャンパス合わせて784名となり過去最多の参加者数を記録した。

NNCにおいては、開会式におけるマルクス学長の挨拶と学生入試広報スタッフによるオリエンテーションのち、参加者は3限目の各学科の開講科目に参加し、講義に熱心に耳を傾けた。また、4限目には講義と並行して各学科の説明会とキャンパスツアーを行った。学生入試広報スタッフの案内によるキャンバスツアーには200名近い参加者がおり、それぞれ10名程度のグループに分かれ、最近装いを新たにした人類学博物館、学生の憩いの場であるパッヘル・スクエアを始め、大学図書館、キャリア支援室などの施設を見学した。



NNC 学生入試広報スタッフの司会による開会式

第40回野外宗教劇「受難」

10月14日午後6時より、今年で40回を迎える野外宗教劇「受難」が上演された。「受難」は、学生が一年かけて脚本を作り、自ら演出し、キリストのエルサレム入城から十字架上の死までを演劇にしたもので、本学を代表する伝統行事として引き継がれている。

今年度は、NHK総合テレビの番組「さらさらサラダ」に部員が出演(生放送)し、事前に告知

Nanzan Square

Pentecoste (ペンテコステ)

名古屋キャンパスのし棟西側壁面に、十字架のモザイクがある。聖書において、火は神をイメージするものとして使用され、このモザイクは炎が十字架を形づくりしている。キリスト教は十字架を通して、神の愛が示されたと教え、神の愛が十字架を描くのである。

新約聖書では、ペンテコステの日に、異なることばを話す人々が互いに同じことばを得たことを物語っており、神の愛が人々を結ぶことを表している。



第34回「父母の集い」開催

南山大学は9月30日、名古屋・瀬戸両キャンパスで「父母の集い」を開催した。この行事は、南山大学後援会との共催によるもので、在学生のご父母に本学の教育・研究や就職支援等の活動についてご理解いただくとともに、本学へのご意見・ご要望を伺う貴重な機会となっている。

名古屋キャンパス

名古屋キャンパスでは、午前中に全体会、午後に学科懇談会、指導教員との個別面談(事前申込制)、施設見学を行った。約460名が参加した全体会第1部では、マルクス学長の歓迎の挨拶に続き、梅村忠直後援会理事長からは「南山大学の実力に対する評価は、この地域のみならず、全国へと拡がってしかるべきである。自らが学び、考え、判断する人材を育てるよう頑張っている大学をご支援を願いたい」との挨拶があった。

引き続き、練尾学生部長、ジップル国際教育センター長、荒井就職委員会委員長から「学生生活」、「海外留学」、「就職状況」についての本学の取り組みや実情の説明がなされた。全体会第2部では、犬山市教育委員会の瀬見井久氏による「教育について思うこと」と題した講演が行われ、瀬見井氏は「現在盛んになっている競争原理の導入による教育再生議論は流行であり、教育には不易なもの、即ち学ぶ喜び、育む教育こそが原点であり重要である」と述べられた。

午後に行なった学科懇談会には205名、個別面談には180名、施設見学には95名の参加があった。また、学内各所に相談コーナー(留学、就職、学生、教務、健康)を設け、全体会では対応しきれない細かな相談の場を提供し、63名の参加があった。(総務課)



瀬見井久氏による講演

News

先導的ITスペシャリスト育成推進プログラムに選定

平成18年度「先導的ITスペシャリスト育成推進プログラム」(文部科学省)に、名古屋大学情報科学研究科、愛知県立大学情報科学研究科、静岡大学情報学研究科と本学数理情報研究科で連携して申請したプロジェクト「OJLによる最先端技術適応能力を持つIT人材育成拠点の形成」が選定されました。

申請内容の骨子は、OJT(On the Job Training)とPBL(Project-based Learning)を融合した教育方法であるOJL(On the Job Learning)を柱とし、先導的ITスペ

Campus Topics

他人・知識・自分と出逢う場 「政策・情報学生交流会」

取材:石黒 太祐(総合政策学科3年)
執筆:水野 良子(総合政策学科3年)

瀬戸キャンパス



NSC 体験授業
「電池の要らないラジオを作ろう」

瀬戸キャンパスでは、午後1時から全体会、学科懇談会、個別懇談会等を行なった。全体会ではマルクス学長の挨拶の後、阿部博後援会副理事長より「日本のトップレベルを目指しその基盤を築いている本学に期待すると共に、本日のイベントを有効に活用いただきたい」との挨拶があった。

続いて、三浦学生部次長より、上南戦4連覇達成に貢献した瀬戸キャンパスの学生の活躍ぶりや多目的グラウンドと宿泊可能な施設として研修センターが完成したことについて報告があつた。学生生活については、振り込め詐欺の電話、悪徳商法の勧説また新興宗教へ入信についての注意があり、「大学と家庭の連携が必要であるが、そのためには大学から送付される『成績表』を参考にして、家庭での生活に変化がないか注意いただきたい」と依頼があつた。

学生(入試広報)スタッフの生の声が聞けたのがよかったです」「早く自分もこのキャンパスの住人になりたい」などの好意的な意見が多かつたことを付記しておく。

(入試広報委員会委員長 青柳 宏)

類を体験することになります。毎回、議論する内容は異なりますが、全体企画では政策の意義について考えます。例えば、各大学の講義科目を比較し、自らカリキュラム等を考え、「理想の総合政策学部」を作り出すのです。そして、その過程から自分の学ぶべき方向性を見出していくきます。

また、分科会は様々な分野に分かれて行う勉強会です。しかし、勉強会とはいっても楽しい内容ばかりではなく、フィールドワークやディスカッション等を含めた勉強です。これは各々の興味に沿って選択できます。自己分析からプレゼンテーションの方法、時には、分科会のテーマソングを作ってしまうこともあります。

他大学や異なる学年の人たちと出逢い、新しい考えに触れることにより、自分を知り、最終的には心の支えとなる仲間を作ることできる政策・情報学生交流会。総合政策学部生以外の方でも参加できます。

【参考】<http://koryukai.org> 第24回政策・情報学生交流会



「第24回政策・情報学生交流会」分科会の様子

私の研究

縄紋土器と北東アジア

大塚 達朗

私の現在の研究対象は縄紋土器です。これまで、縄紋文化は縄紋土器一系統説によって理解されてきました。大陸から渡來した土器を元に日本列島内で独自の発展を遂げたのが縄紋土器であり、それを育んだ先史狩猟採集民の文化が縄紋文化であるという説です。この一系統説の根拠は、型式の漸進的変化と紋様帶系統論ですが、型式変化の漸進的変化はキメラ土器(異系統要素の同居土器)が各種存在することから否定されるべきこと、紋様帶系統論は論理形式が無限退行に陥っているので根拠にならないことなどを私は明らかにしてきました。

それを証明するのは根気のいる面倒な作業ですが、文字記録の無い新石器文化を究明するには、生活の道具である土器を手がかりとするほかないので、破片ですが確実な証拠から過去を明らかにすることは実は痛快だと思います。

縄紋土器一系統説は成り立たない一方、キメラ土器に着目することで、由来の異なる土器群



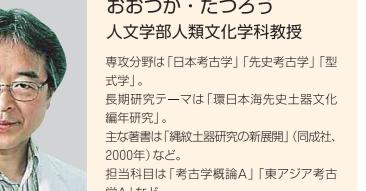
出版社 同成社
出版日 2000/12/10
ISBN 4-88621-209-3

が日本列島に多数ある可能性に気づきました。したがって、由来が一つで日本列島で独自な展開をした土器文化が縄紋文化であるという見方は問題であると学界に警鐘を鳴らしています。

対案を出すためには、由来の異なる土器群がどのくらい存在するのか、それらは、日本列島内の先史文化と関連するのかなどを考えなければならないわけですが、そのために、近年明らかになってきた日本海を挟んだ大陸東北アジアの諸先史土器文化と日本列島先史土器文化との編年関係を考究はじめています。私は、北東アジアや日本列島は、先史狩猟採集民の文化として運動していると予想しています。

それを証明するのは根気のいる面倒な作業ですが、文字記録の無い新石器文化を究明するには、生活の道具である土器を手がかりとするほかないので、破片ですが確実な証拠から過去を明らかにすることは実は痛快だと思います。

その楽しみを南山大学の学生・院生に伝えたいために、日々精進しています。



専攻分野は「日本考古学」「先史考古学」「型式学」。
長期研究テーマは「縄日本海沿岸土器文化編年研究」。
主な著書は「縄紋土器研究の新展開」(同成社、2000年)など。
担当科目は「考古学概論A」「東アジア考古学A」など。

International Friendship

フランスに留学して

留学:小瀬木 彩乃(フランス学科3年)

今年の2月から8月までの7ヶ月間、派遣留学制度(認定留学)を利用して、フランスに留学しました。この制度では、留学する時期、国や都市まで自分で自由に選択することができます。入学手続き、ビザの手配、住居の確保などすべての手続きにおいて自己責任を伴うため、とても骨の折れる作業ですが、帰国後、留学先の大学で取得した単位が認められ、4年間で大学を卒業することが可能で、また、短期間(4ヶ月以上)でも留学できるため、留学を希望する人はぜひ活用してほしい制度です。

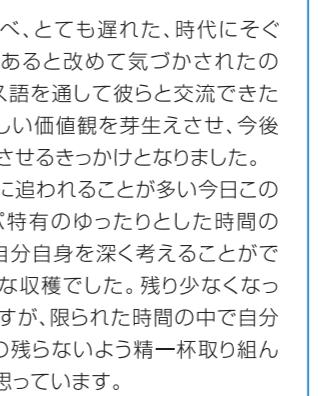
留学というと英語圏を思い浮かべる人が多い中、私があえてフランスを選んだのは、フランス語專攻というのもひとつの理由ですが、良い意味でも悪い意味でもアメリカに偏っている日本から外に目を向け、視野を広げる大きなチャンスだと考えたからです。

フランスは独自の文化・芸術・人種に誇りを持つ民族で、話すのが大好きです。彼らはよくホームパーティーを開きます。話題は家族・パанс・フランスなどと考えたからです。

フランスは独自の文化・芸術・人種に誇りを持つ民族で、話すのが大好きです。彼らはよくホームパーティーを開きます。話題は家族・パанс・フランスなどと考えたからです。

欧米諸国と比べ、とても遅れた、時代にそぐわないものであると改めて気づかされたのです。フランス語を通して彼らと交流できたことは私に新しい価値観を芽生えさせ、今後の生活を変化させるきっかけとなりました。

毎日の生活に追われることが多い今日この頃、ヨーロッパ特有のゆったりとした時間の流れの中で、自分自身を深く考えることができたのは大きな収穫でした。残り少なくなった学生生活ですが、限られた時間の中で自分を高め、悔いの残らないよう精一杯取り組んでいきたいと思っています。



私のクラス

法的思考力を養う

平林 美紀

2006年度は、「民法総論」という講義科目を担当しています。この科目は学生が私法の分野で最初に出会う科目ですので、私法科目一般に対するアレルギーを引きおこさないよう、責任の重さを感じながら臨んでいます。初めて民法を学ぶ学生がスポンジのように知識を吸収していくことを感じられる機会は、私にとつて大きなやりがいになっています。

講義では、たとえば、子供が自分の実印を持ち出して勝手に委任状を作成し、代理人を称して土地を売却した場合、それを信じて土地を購入した相手方を保護するのか、勝手に土地を売却されてしまった本人を保護するのか、といった問題を考えます。講義では、こうした法律問題を考えるときに重要なのは、紛争当事者の立場に自分を置いて、どのような法的責任感をもつて行動するかを探すことであると強調するようになります。学生は、ともすると結論を知るだけで満足し、どのような論理構成によつてその結論が導かれるのか、その結論によつて守られるべき利益とは何なのかといったことを見落としがちです。しかし、それでは本当に法律を学んだことにはならず、新たな問題に解決を与えるための思考力も養われないのであります。

ひらばやし・みき 法学部法律学科助教授

専攻分野は「民法」。
長期研究テーマは「多数当事者の債務簡便化に関する研究」。
主な論文は「重要な債務引受け(併存の債務引受け)に関する考察」(名古屋大学法学研究科、2004年)など。
担当科目は「ペーシック演習」「アドバンスト演習」など。

